

デザイン学科准教授 扇 千花

1. 研究活動

有松絞りまつり	2011. 6. 4～5	有松絞り産地	学生が産地で板締め絞りの技法を職人から学び、手ぬぐいの柄をデザイン～生産～販売する産学連携プロジェクトの企画、運営を行う。
特別客員教授 若林剛之先生の招聘	2011. 6. 13 7. 29 11. 8	名古屋芸術大学西キャンパス X110	若林剛之先生講義 (6月13日)、絞り手ぬぐいデザインチェック (7月29日、11月8日)の企画、運営を行う。
素材展	2011. 7. 22 ～8. 3	名古屋芸術大学アート & デザインセンター	デザイン学部、クラフトブロック2～4年生の前期制作展の企画、運営を行う。
ワークショップ	2011. 8. 8	金沢市卯辰山工芸工房	板締め絞りの技法紹介を行う。
尾張名古屋の職人展	2011. 9. 16 ～18	オアシス 21	名古屋帽子協同組合のブースで、学生制作の帽子展示、9月17日開催の「帽子ファッションショー」で学生制作の帽子出品の運営、管理を行う。
受託研究	2011. 9. 25 ～11. 30	武豊町文化協会	武豊町文化協会の旗を、大学近郊の尾州産地においてジャガード織で作成。そのデザイン、生産管理を行う。
SOU・SOU 催事	2011. 10. 7 ～16	セントラルパーク・アネックス	学生が産地で板締め絞りの技法を職人から学び、手ぬぐいの柄をデザイン～生産～販売する産学連携プロジェクトの企画、運営を行う。

Bite-Size: Miniature Textiles from Japan and the UK	2011. 10. 31 ～12. 14	大和ファウンデーション ジャパンハウス、ロンドン、イギリス	作品「Pegasus, 8pm 31st Oct. at London」を招待出品する。
国際会議での講義	2011. 12. 30	第8回国際絞り会議 in 香港	自作の紹介と、本学のテキスタイル教育、大学と有松絞り産地との産学連携プロジェクトの講演を行う。

2. 教育活動（教育実践上の主な業績）

大学院授業担当 有 無

授業科目 デザイン実技 I F3-2 / 素材体験	
<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
1年生ファウンデーションクラフト系課題として、この授業は位置づけられる。自分の身のまわりにある廃品を30種類以上収集し、その素材を使って造形物（立体・半立体・平面）を制作する。手を動かしながら、素材固有の触感、重さ、固さを感じ取りながら、素材同士を組み合わせる。自分のイメージにあわせて素材を組み合わせるのではなく、最初に素材を集めそれを組み合わせながらイメージをつくるという素材体験の重要な考え方を示した。どんな素材に興味をひかれるのかを自分で認識するために、素材収集を行ない、その客観化を促した。授業の最終日には、各学生がつくった3作品を全員で鑑賞し、素材体験の面白さに気付くことに焦点を合わせた授業にした。	学生が収集してきた廃品（素材）と学生が制作した3作品を教材とする。
授業科目 デザイン実技 II（繊維素材）	
<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
テキスタイルデザインコース最初に受講する実技授業。通常テキスタイル分野の実技は、糸（織り）や布（染め）から始まり、また材料学は座学の場合がほとんどである。しかし、糸や布以前の状態である繊維素材の特質を学生が理解することがテキスタイル教育の根幹であるという考えから、最初に「繊維素材」を実技で学ぶカリキュラムにした。また、素材に実際に触れるだけにとどまらず、照明（植物繊維による紙漉き）やティーコゼ（動物繊維によるフェルト）の制作を通して、より深く素材の特質の理解を促した。	学生が収集したテキスタイルだと思う50種類の素材。学生が栽培する綿の木。紙漉きの材料、用具。フェルトの材料、用具。

授業科目 デザイン演習Ⅱ (プリント)	
□前期 ◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
<p>プリントの技術の特徴と、テキスタイルデザイナーに必要なスキルである柄のリPEATの付け方の理解を促した。また、出来上がったプリント生地を縫製に出して雑貨(クッション座椅子)の形にすることにより、用途に応じた柄、配色、生地の種類などの理解を促した。プリントの実習に加えて、染色分野で不可欠な知識である「染料と被染物の組み合わせ」の理解を促すために、色見本製作を行なった。柄のテーマは「伝統模様のリデザイン」とし、伝統模様をリサーチ、3柄をリデザインし、最終的には1柄をシルクスクリーンに製版、2配色で布にプリントした。また、「伝統模様のリデザイン」を各自冊子にまとめることにより、柄のデザインプロセスに対する理解を促した。</p>	<p>シルクスクリーンプリントの材料、用具。伝統模様の資料</p>
授業科目 デザイン演習Ⅲ (産業テキスタイル)	
◆前期 □後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
<p>2年前期～3年前期までの基礎授業では、自分がデザインした布を自分で制作することにより、テキスタイルの素材や技術を学んできた。しかし、卒業後の職となるテキスタイルデザイナーは布のプロダクトデザイナーであり、工場で生産することが大きな違いである。この授業では、産業テキスタイルの第一人者や、世界各地でテキスタイルと関わっている専門家を特別講師として招聘し、講義聴講、また、テキスタイル工場や展示会の見学を行なう。実社会の現況を知ることから学生の視野を広げ、2年～3年テキスタイル基礎、4年での自由制作、そして卒業後の仕事をつなぐ役割を持つ。</p>	<p>学生が産業テキスタイルの専門家の話を聞き、産業の現場に身を置くこと自体を教材とする。</p> <p>特別講義 「アパレルテキスタイル」テキスタイル キューブ主催 喜多正子先生 「インテリアテキスタイル」シンコー株式会社デザイナー 渡部まさみ先生 「デザイナーが地場産業に関わり、それを地元の学生が担う意義」SOUSOUダイレクター 若林剛之先生 「ジャパン テキスタイル」テキスタイルデザイナー 梶原加奈子先生</p> <p>見学 フェルト帽子工場 森安 帽子縫製工場 ワールドハット ジャガード織工場 ワイズテキスタイル 有松・板締め絞り工場 張正 有松・染色工場 久野染工 インテリアテキスタイル展示会 シンコー株式会社</p>

授業科目 デザイン実技Ⅲ（地場産業との連携）	
□前期 ◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
<p>地元のテキスタイル工場と連携してその地域に受け継がれた素材や技術に触れることから、生活を楽しく豊かに変えるための新しいテキスタイルの活用方法を構想し、アイデアを生み出すことをテーマとする。性格の異なる二つの帽子の工場を見学した後、学生がフェルト帽子、縫製帽子のどちらかの工場を選択し、自分の生活で使用したい帽子を制作した。有松絞り産地でサンプルを染め、それをSOU・SOUディレクターの若林剛之先生が市場に受け入れられるデザインという視点で選定。成果物（手ぬぐい）は、有松絞りまつりで学生たち自身が販売、デザイン～生産～販売までを一貫して体験する。</p>	<p>学生が書いた指示書をもとに、現場での専門家とのやりとり自体を教材とする。</p>
授業科目 デザイン実技Ⅳ（卒業研究）	
◆前期 ◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
<p>染め、織り、テキスタイルデザインの中から、自分の研究テーマを選択し、卒業制作を行なう。学生の指向性を計り、独創性を伸ばすために、各学生とのディスカッションの時間を充分に取った。各学生のテーマに応じた素材や技術の提案を行ない、アイデアをかたちにするプロセスにじっくりとつきあった。</p>	<p>学生のテーマにあわせた情報（書籍、展覧会、素材、技術など）</p>

3. 学会等および社会における主な活動